

## 4章 総合問題4

### 問題

#### 【1】

#### 解答

アメリカ大陸からヨーロッパに持ち込まれたトマトは毒性を疑われて観賞用植物となり、なかなか食用とはみなされなかった。今日のように使い道の多い食べ物になったのは最近のことなのである。[89字]

#### 解説

東大の要約問題では、議論の要点をきちんと理解できるかどうか、それを字数制限の範囲内でうまく要約できるか、という2つがポイントになる。

全体の要旨をつかむためには、各段落の要旨を簡単にメモしながら読み進めるとよい。論理展開のパターンは限られているので、練習を進めていくと、展開の予測 (anticipation) ができるようになってくる。そうすれば、さらに読み進むのが速くなり、要旨も素早くつかめるようになるはずである。

今回の文章の内容は評論文ではなくて説明文になっているので、キーワードを追いながら、主要な情報とそれをサポートする情報とを区別しながら読み進むとよい。

では、キーワードを追いながら、各段落の内容を検討してみよう。

#### 【第1段落】

- native to the Americas (ℓ. 1)
- European explorers … returned home with them (ℓ. 2)
- poisonous (ℓ. 4)
- Europeans considered tomatoes curiosities, not food. (ℓ. 5)

この段落では、トマトがアメリカ大陸からヨーロッパにもたらされたこと、および、ヨーロッパ人は最初はトマトを食用にしなかったことが述べられている。問題文のテーマである「トマトの歴史」の「導入」となっている。

⇒トマトはアメリカ大陸原産で、探検家によってヨーロッパに伝えられたが、有毒だと考えられて食用にはならなかった。

#### 【第2段落】

- settlers in the Americas did grow tomatoes (ℓ. 6)
- ornamental plants (ℓ. 7)
- mid-1800s (ℓ. 7)
- No one ever dreamed of eating one. (ℓ. 8)
- tomatoes were edible if they were cooked for a long time (ℓ. 9)
- stew them (ℓ. 9)
- many people were afraid to eat them (ℓ. 10)

この段落は、第1段落の「導入」を受けて、トマト栽培の用途と食用になるまでの過程に

ついて説明している。第4文の But によって状況の変化が予告されている。最後の2文には具体例が示されているが、これは直前の Still many people were afraid to eat them. をサポートしているだけなので要約する時には省いてよい。

⇒アメリカ大陸に入植した人たちもトマトを栽培したが、食用ではなくて観賞植物としてであった。次第にトマトの煮込み料理が作られるようになったが、19世紀後半になってもトマトを食べようとしなない人が多かった。

### 【第3段落】

- tomatoes caught on (ℓ. 13)
- today people eat tomatoes raw or cooked (ℓ. 13)
- not so very long ago (ℓ. 15)
- tomatoes were not considered a delicious, versatile food (ℓ. 15)

この段落は最終的に、現代ではトマトが食用として定着したことを述べている。段落の冒頭に But があるので、前の段落の内容との逆転があることが予告されている。第1文の and 以降、および第2文では、トマトがどのように食べられるかについて触れられているが、1つ1つを具体的に解答に含める必要はなく、「さまざまな形で食べられている」ことを言えばよい。最終文の not so very long ago という部分では、トマトが食用になるまでにいかに時間を要したのかが強調されているので、これも注目しておきたい。

⇒トマトは今日ではさまざまな形で食べられているが、このように人気が出たのはそう遠い昔のことではない。

要約文の作成にあたっては、トマトが「アメリカ大陸からヨーロッパに持ち込まれた」こと、「有毒だと考えられていた」ので「食用ではなくて観賞用」であったこと、「広い用途で食されるようになったのはそう遠い昔のことではない〔長い時間を経てようやく食べられるようになった〕」ことを盛り込みたい。

### 全訳

トマトはアメリカ大陸原産の植物である。ヨーロッパの初期のアメリカ大陸の探検家たちが持ち帰るまで、トマトはヨーロッパでは知られていなかった。ヨーロッパでは、料理人はトマトをナス科であると正確に識別した。ナス科の植物は有毒であることが知られていた上に、人々は赤い果実を特に怪しいと考えていた。ヨーロッパ人はトマトを食べ物ではなくて珍しい物とみなしていた。

初期にヨーロッパからアメリカ大陸に入植した多くの人たちは、トマトを栽培こそしたものの、たいていは観賞用植物として栽培しただけだった。1800年代の中頃になっても人々はいかばかりで赤い果実目当てに、花壇でトマトを栽培していた。トマトを食べてみようとは誰も決して夢にも思わなかった。だが、トマトは長時間調理すれば食べられるというわさが次第に知れわたった。料理人は薪ストーブの奥で、ブリキのカップにトマトと2分の1カップの砂糖を入れて煮込んだりしたものだ。それでも怖くて食べられない人が多かった。1880年代のことだが、ある夫が帰宅すると妻がトマト料理を作っているところだった。彼は「それを捨てろ。私たちを皆殺しにするつもりか？」と怒鳴った。

だがトマトは人気を得て、今日ではトマトは生でも、調理されて煮込み料理、スープ、ソー

スとしても食べられている。トマトはそれだけでも、あるいは他の食べ物と組み合わせても食べられている。トマトがおいしくて使い道の多い食べ物とは考えられていなかった時代——それほど昔のことではないのだが——を想像することは難しい。

**注**

- ℓ. 8 ◇ word got out that … 「…といううわさが知れわたった」  
○この word は「ニュース；うわさ」という意味で，that 以下が同格節としてこの「うわさ」の内容を具体的に説明している。ここが離れた‘同格’になっていることに注意する。ここでの get out は「知られる；伝わる」という意味。
- ℓ. 9 ◇ edible 「(毒性がなくて) 食べられる；食用に適する」⇔ inedible 「食べられない」
- ℓ. 10 ◇ tin 「ブリキ製の」  
○名詞では「スズ；ブリキ」の意。
- ℓ. 11 ◇ concoct ～ 「～を調理する」
- ℓ. 12 ◇ thunder … 「…とどなる」  
○名詞では「雷」の意。

**【2】**

**解答**

- (1) ① (2) Ⅰ  
(3) 不要となる段落 e 3番目にくる段落 b 4番目にくる段落 a  
(4) c

**解説**

以下の流れで、設問をみていく。

1) 重要点をつかむ

導入部で予想されるパターンは「旧情報→新情報」である。よく見られるのは、トランジション・マーカーを使って、旧情報を背景として述べた最初の部分と、文章の主題である新情報を紹介した2番目の部分とを対比させるパターンだ。一般的にその際のマーカーは、but, however, actually, in fact である。これらは‘対照’や‘譲歩’を示している。

第1段落では、①で However というマーカーがあり、その文で本論の重要なテーマの1つを述べている。つまり筆者は競争することよりも協力することを勧めている。しかしながら、本論の主要部分(第2～第8段落)はこのテーマについて直接的に説明していない。本論の具体的内容が紹介されるのは第1段落最後の文②である。この文章は主に目的の順位づけについて書かれているのである。

普通、主張のポイントは導入部分の最後かその近くに出てくる。今回は、それで主張のポイントを見つけられるが、これが必ずしも当てはまるとは限らないので注意したい。この文章は「論証・説得」という形を取って進んでいく。論証と説得は常に同じとは限らない。論証とは本来道理に適ったものであり、説得するための論理的証拠や事実を要求する一方、説得力のある文章は感情や先入観に訴えるものであるかもしれない。

この英文は9つの段落からなり、そのうちの4つの段落が抜き出され、順序が入れ換えられている。選択肢の中には不要な段落もある。

## 2) 一貫性

段落および英文間の接続：

第1段落は宇宙探査で扱う内容を紹介している。この段落は冷戦下での宇宙開発競争への言及で始まっている。この内容が、協力することは競争することより望ましいという筆者の描くテーマに背景を与えている。

設問(1)の正解はaで、aでなされている主張には意味があるかもしれないが、aの後に続く内容がaの論証となっていない。選択肢cは明確にcの前にある文に続き、また、スプートニクは初の人工衛星なので、cの前にある文も明らかにbの文に続いている。cの文は、ロシアとアメリカ合衆国の現在の協力関係に関して、While というマーカーが施されて‘譲歩’で始まっているが、文の残りの部分は、その前の文と繋がっている。d、eの文はこの導入となる段落において最も重要な文である。b、c、dの文はすべて組み合わせられて結論となる段落と繋がり、eの文はこの文章の本体と繋がっている。

第2段落では、地球の気候を監視するという最初の目的に関する議論を始めている。1文が欠けており、設問(2)に解答するには、その欠けている文を適切な位置に戻さなければならない。正解はIである。第2段落最初の文でその目的を提示している。第2文で反対意見に触れている。第3文は、‘対照’を表すButで始まり、宇宙から集められたデータの重要性についての説明とともに第2文の意見に反論している。第4文が欠けている文である、つまり、その文は反対意見に対する‘譲歩’で始まり、それからなぜ宇宙からのデータが重要なのかを説明している。その次の文が上記内容に関して話を広げている。その文はAndで始まり、alsoという語も含んでいる。これにより、欠けている文が空所Iに入らなければ、意味をなさなくなる。alsoは宇宙船が果たす追加の機能を導いている。空所Iは、前文のalsoだけでなく、欠けている文の内容からも不適當。

第3段落は、現存する衛星は老朽化しているという事実と衛星が機能不全に陥る前に交換する必要があるということへの説明で始まっている。この段落は、新しい衛星や総合的なデータ分析を供給する機関に資金を提供するという直接的な提案で終わっている。

次からの4つの段落は、最初の2つの段落と最後の段落をつなぐために、選択肢から選び空所に入れていく必要があるが、最善の取り組み方は、最初に第9段落(結論)を読み、提示されているポイントに印を付けることである。結論が導入部分の繰り返しであると考えべきではないが、これらのポイントの中で最も重要なものは、前に出てきた段落と関連があるはずである。こうすることが、この文章に最も関連のない段落や文法的な理由から不可となる段落を排除する助けとなる。不要な段落はeである。

もし数詞の列挙による繋がりだけを考えれば、eが空所に適するよう見えるかもしれない。第2段落では開始部分でfirstという語が見られ、さらに第8段落でもfourthという語が見られる。順不同になった選択肢の段落の中に、Secondで始まっている段落とさらにThirdで始まっている段落がある。ひょっとしたらこれらのうちの一つだけが間違っているかもしれない。段落dは対小惑星防衛計画に関する内容である。段落b、cも同様である。段落eは民間資金対公的資金の構図に関する内容である。その段落だけで見れば、何らかの意味をなすかもしれないが、すでに不要として削除した導入の最初の1文を除けば、この文章の残りの部分で段落eにつなげられるものはない。よって、段落eが消える。この種の問



題を解くには内容の繋がりを確認することが肝要で、「ディスコース・マーカー」だけを頼りにするのは安易である。段落 **d** が空所に含まれるなら、以下のような繋がりが出てくることになるが、その繋がりに Second と fourth の間に欠落がある。

The first and most pressing need → *Second* → [missing] → A fourth goal  
この欠落した部分を繋げるための内容は、段落 **a** にある。

To protect earth, we must go to space. But *other* important goals remain as well.

最初の文で、地球を守ることに関する第 1、第 2 の目的について言及し直している。第 2 文では、But が明確な対照を打ち出し、other が、第 3、第 4 の目的を含めた、目的の一覧の列挙を続けている。段落の最初の文が最も重要な主張を伝えていると言われることがあるが、第 1 文は適切に書くのなら、その文以前の内容からその後続くことになる内容への流れを維持すべきものなのである。

段落 **e** が削除され、段落 **a** が含まれれば、本来の順序を組み直し易くなる。

第 4 段落は **d** である。対小惑星防衛に関する段落は 3 つ残っている。これらを順番に並べる必要がある。段落 **d** が最初にくる。不要な段落 **e** が削除されているので、今や数詞の列挙、Second が有効な手掛かりとなる。明らかに **d** は他の 2 つの段落よりも前にこなければならぬ。

第 5 段落は **c** で、第 4 段落最後の文の内容を広げている。これらには第 4 段落の終わりから第 5 段落の最初にかけて広がる 2 つのより合わさった一連の流れがある。

1) *ways of predicting their movement* → *means to do so* → *search procedures*

2) *unfortunately* → *far from adequate* → *only*

第 6 段落 **b** は、対小惑星防衛を扱う内容に関する最後の段落である。それは至急実行が必要とされることに関する具体的な提案で終わっている。これが、筆者が文章全体を通じて従っている文展開のパターンである。

第 7 段落は **a** である。上述のように、最初の 1 文で地球を守ることに関する第 1、第 2 の目的について言及し直している。第 2 文では、But が明確な対照を打ち出し、other が、第 3、第 4 の目的を含めた、目的の一覧の列挙を続けている。これらの目的は地球を守ることに関するものではなく、人類の知識を拡張することに関するものである。第 7 段落で述べられている目的は地球外生命を探すことである。

第 8 段落は太陽系の外側の探査に関するものである。設問 (4) はこの段落に焦点を当てている。筆者は別の太陽系へ人類が移住することについて疑問を投げかけているが、星間探査は勧めているので、正解は **c** である。ここでも、具体的な行動を勧めるという形で段落を終えるパターンが継続されている。

第 9 段落は導入部で提示した問題に立ち返っている。最初の文の前半で第 2～第 8 段落で説明した目的について言及している。この言及は While というマーカーが施された譲歩節でなされている。しかしながら、コンマ以降の部分で、筆者はこの文章の主題に関する主張に戻り、宇宙探査のさらなる進歩への協調的取り組みを強く勧めている。加えて、冷戦時代に象徴される危険な競争関係に関する反省も促している。

次のうち第 8 段落の主張として最も適当なものはどれか。

a 「人類が別の太陽系に移住することは可能であるが、それには時間がかかることになる。」

筆者は may in fact never be feasible と述べているので誤り。

b 「いつ最初の宇宙探査機が太陽系の端に到達したのかは不明である。

内容は合っているが、主張のポイントではない。それは、我々が深遠な宇宙についていかに知識が少ないかということに関する説明でしかない。

c 「我々は別の太陽系を探査するための技術開発を進めるべきである。」

d 「人類が地球を出なければならぬ日があるかもしれない。」

文中に述べられていないので誤り。

e 「我々は星間宇宙旅行のための技術開発を始める必要がある。」

筆者は星間旅行ではなく、星間探査技術の開発を強く勧めている。

### 3) 結びの言葉

以下を一例として、この種の問題には体系的に取り組むことを覚えておこう。

- 第1段落を読み、設問(1)を解いて文章に適さない情報を除いておく。
- 第2段落を読み、設問(2)を解いて正しい場所に文章に適した情報を追加しておく。
- 第9段落(結論)を読み、筆者がどの方向に進んでいるのかを確認する。
- 本文に適さない段落を取り除く。
- 結論を頭に入れて、第3段落から第8段落へと繋がる4つの段落の順序を決定する。

#### 全訳

人工衛星が最初に宇宙に打ち上げられてから半世紀以上が経っている。スプートニクの打ち上げで始まった宇宙開発競争は、冷戦という状況下で行われた。それは、東西が激しく争っていた時期だった。ロシアとアメリカ合衆国は今では、共同で宇宙開発計画を進めているが、忘れてならないのは、宇宙開発競争は軍備拡大競争と直接的に結びついていたことである。宇宙探査はミサイル・ロケット技術の開発によって可能になったのである。しかし、現在の情勢では、競争することよりも協力することのほうが有利に働き、この状況を科学の進歩と人類の幸福な暮らしのために利用すべきである。計画と目標は多くあるが、最富裕国においてさえも、こうした経費が極めてかさむプロジェクトの財源は限られているため、目的の順位づけが不可欠である。

はじめに、そして緊急に宇宙への投資の拡大が求められているのは、地球の気候を監視するという面においてである。宇宙探査への投資の拡大に異議を唱える人たちの中には、特に地球温暖化のような環境問題など、より差し迫った地球上の問題に目を向けるべきだと言う人もいる。しかし、時々無視されているのは、宇宙から集められたデータが、気候変動のモデルの精度を上げるために極めて重要だということである。地球上で多くの情報を集めることは可能だが、最新のデータは一連の衛星によって供給されている。衛星は陸と海の表面温度、氷床の大きさ、大規模な火災を監視する。そして、有人・無人の宇宙船もまた、太陽から発せられるエネルギー量の変動といった、地球の気候への外部からの影響を監視している。

残念ながら、現在使用されている衛星は、予算の制約のために老朽化しており、近い将来、機能しなくなる。交換が遅すぎると、データに大きな隔たりが生じることになる。例えば、

もし、機能しなくなった衛星と交換された新しい衛星が、太陽の輝度の上昇を示したとしても、そのデータが太陽の実際の変化によるものなのか、それとも、古い衛星のセンサーと新しい衛星のセンサーとの不一致によるものなのか、判断できない。さらに、アメリカ合衆国内の気候変動を監視している機関は一つもないし、国際的な気候変動については言うまでもない。現在の老朽化しつつある衛星を新しい衛星に交換するための資金を用意することと、データ分析のための総合的な情報の供給源となる気象関連機関を設立することが、今早急に起こすべき行動である。

**d** 2番目に、対小惑星防衛計画を準備しなければならない。約6,500万年前、巨大な小惑星が地球に衝突し、地球上の種の半分以上が絶滅した。そのようなことがまた起こり得るだろうか？ 起こるのは間違いない。衝突が起こる当面の兆候はないが、宇宙には何万という物体があって、それらがいつか地球に降りかかり、大規模な被害をもたらす可能性がある。それらの動きを予測する方法はあるが、残念なことに、その手段は十分とは言えない。

**c** 現時点では、調査でとらえることができるのは、少なくとも直径1キロ以上の物体、すなわち、地球規模の破壊を招く可能性がある物体だけである。しかし、それより小さい物体であっても、広範囲の地域にわたって被害をもたらす可能性がある。1908年にシベリアに落下した隕石は、何千平方キロメートルにもわたる森林を破壊した。もしそれが、東京やロンドンのような大都市に落ちていたとしたら、おそらく、それらの都市は今、存在していないだろう。

**b** 衝突の可能性を早期に探知することは、対抗策を講じる時間をとるために不可欠である。宇宙船を使って大きな流星体を押しよけたり、爆破したり、地球の軌道から引きずり出したりする可能性も考えられているが、たとえその技術が現在あったとしても——実際はないのだが——その計画を実行するには15年かかると見積もられている。できるだけ早くに我々は、調査対象を小さな物体にまで広げて、制御された方法で試験的に小惑星をそらし、脅威の度合いを評価する公式の制度を整える必要がある。

**a** 地球を守るために、我々は宇宙へ行かなければならない。しかし、他にも重要な目的がある。1つは、太陽系内の新しい生命の調査を進めることである。たとえ地球外生命が存在したとしても、そうした生命体はおそらく我々にとって脅威となるので、探し出すのはよい考えではないと言う人もいる。しかし、我々がさらに知識を追求しようとし続けるのは必然であるため、これは重要な問題である。地球外生命を探す主な方法は——過去、現在、そして少なくとも近い未来においては——「水を探す」ことである。というのは、水の存在は、我々が既に知っているように、生命が存在するための前提条件だからである。これまで、生命の兆候を見つけようとする最も野心的な試みは火星で行われてきたが、まだ何も見つかっていない。しかし、外惑星の衛星の調査によると、いくつかの衛星には巨大な地下の海と多くの生命の原料があるようである。行わなければならないのは、火星からサンプルを回収すると同時に、衛星エウロパとタイタンの表面下に存在しているものに関する情報を得ることができる機器を持って、それらの衛星に戻る準備をすることである。

4番目の目的は、我々の行動範囲を太陽系の外側にまで広げることだろう。小説に登場する宇宙探検家たちは、ずっと以前から、銀河系とそれを超える範囲で活躍しているが、これまでで、太陽系の端にまで到達した、人類の手による唯一の宇宙船は、ボイジャー1号であ

る。ボイジャー1号は、2002年か2004年に、太陽系の謎の重層的な境界に入った。2カ年のこのような成果〔業績〕をめぐって、専門家たちの意見が依然として一致していないという事実は、そのようなはるか遠方の探査では、まだ不確かなことが存在するという明らかな証拠である。人類が別の太陽系へ移住することは、明らかにほるか先の可能性で、実際は実行できないかもしれないが、我々が住む相対的に小さい世界の向こうには、未知のことがあふれているのである。星間探査のための技術を開発し、試験を始めるために行動を、今、起こすべきである。

これらの目的を追求することによって、おそらく、人類全体に共通の利益がもたらされるだろうが、世界中の政府全部がそれらの追求に熱心に協力するだろうと考えるのは、甘いだろう。最初の宇宙探査は、地球規模の破壊が起こる可能性があった、競争という状況の中で行われたことを覚えておかなければならない。スプートニク1号は、アメリカ合衆国に水素爆弾を落とすために開発されたロケットで発射されたのだが、ソ連の軍部はこの衛星をせいぜい「おもちゃ」程度にしか考えていなかった。また、アメリカ合衆国は月を、地球上のどの地点でも狙える核ミサイルの発射基地として使うことを考えていたという事実を思い起こすこともできる。現在は、宇宙、特に国際宇宙ステーションでの国際協力が見られる。しかし、新しい国際競争によって、宇宙探査の努力が別の方向へそらされてしまう可能性はある。我々は今、人類全体に共通の利益がもたらされるような共同の宇宙事業こそ、責任を持って行わなければならない。

#### 【不要な選択肢】

e 3番目の目的として、民間産業が宇宙探査を引き継ぐべきであることを挙げる。ロシア人は彼らの宇宙機関に大いに必要とされた多くの資金を集めるために、裕福な民間市民をすでに宇宙に連れて行っている。国家の宇宙機関には協力は期待できないので、宇宙探査は民間化すべきである。宇宙観光旅行も宇宙空間内にある天然資源の開拓もさらなる開発に資金を投入する可能性がある。

#### 注

本文

- ℓ. 3 ◇ launch ～「～を発射させる」  
◇ artificial satellite 「人工衛星」
- ℓ. 4 ◇ Sputnik 「スプートニク」旧ソ連の人工衛星。1号の打ち上げは1957年。  
◇ context 「状況」  
◇ tense 「緊張した」
- ℓ. 6 ◇ be linked to ～「～と関連している」  
◇ arms race 「軍備拡大競争」  
◇ space exploration 「宇宙探査」
- ℓ. 8 ◇ favor ～「～に有利である」
- ℓ. 9 ◇ exploit ～「～を利用する」  
◇ welfare 「幸せな暮らし」
- ℓ. 10 ◇ abound 「たくさんある」  
◇ fund *n.* 「財源」

*cf. fund v.* (～の資金を賄う)

◇ extremely 「極めて；非常に」

ℓ. 11 ◇ prioritization 「優先順位をつけること」 < prioritize

◇ essential 「必須の」

ℓ. 12 ◇ pressing 「差し迫った」

◇ investment in ～ 「～への投資」 < invest

ℓ. 13 ◇ monitor ～ 「～を観測する」

ℓ. 14 ◇ focus on ～ 「～に集中する」

◇ urgent 「差し迫った」

○ 前出の pressing と同じ意味。

ℓ. 15 ◇ global warming 「地球温暖化」

◇ ignore ～ 「～を無視する」

ℓ. 16 ◇ be critical to ～ 「～に不可欠な」

◇ accuracy 「正確であること；精度」 < accurate

## 工

◇ terrestrial 「地球上の」

◇ source 「情報源」

◇ an array of ～ 「一連の～」

○ array は「(きちんと) 並んだもの」という意味。

◇ surface [sə:rfəs] 「表面」

◇ temperature 「温度」

◇ ice sheet 「氷床」

◇ wide-scale 「広範囲にわたる」

本文

ℓ. 16 ◇ manned 「有人の」 ⇔ unmanned 「無人の」

ℓ. 17 ◇ space vehicle 「宇宙船」

◇ external 「外部の」

ℓ. 18 ◇ fluctuation 「変動」

◇ give off ～ 「～を発する；放出する」

ℓ. 19 ◇ due to ～ 「～のせいで；～のために」

◇ budget 「予算」

◇ restraint 「制約」

◇ in use 「用いられている」

◇ age 「古くなる；老朽化する」

ℓ. 20 ◇ out of service 「使われなくなって」

◇ result in ～ 「結果として～が生じる」

◇ gap 「相違；隔たり」

ℓ. 21 ◇ replace ～ 「～にとって替わる」

ℓ. 22 ◇ determine ～ 「～を確定する」

◇ reflect ～ 「～を反映する」

ℓ. 23 ◇ mismatch 「不一致」

ℓ. 24 ◇ agency 「(政府などで特定の任務を担当する) 機関」

cf. the Meteorological Agency ((日本の) 気象庁)

◇ let alone ～ 「(否定的な内容を受けて) まして～は言うまでもない」

ℓ. 26 ◇ comprehensive 「包括的な」

選択肢 d

◇ asteroid 「小惑星」

◇ extinction 「絶滅」 < extinct 「絶滅した」

◇ collision 「衝突」 < collide 「衝突する」

◇ imminent 「差し迫った」

◇ come *one's* way 「～に降りかかる」

◇ massive 「大規模な」

選択肢 c

◇ cover ～ 「～に及ぶ」

◇ diameter 「直径」

◇ meteorite 「隕石」

◇ Siberia 「シベリア」

◇ flatten ① 「～を平らにする」 ② 「～を破壊する」

◇ Had it hit ～ 「～にぶつかっていたとしたら」

○ If it had hit ～の If が省略されて主語と助動詞の倒置が起こった形。

◇ might well ～

① 「たぶん～かもしれない [だろう]」 ② 「～するのをもっともだ」

※ may well ～, could well ～ も同じ意味。

選択肢 b

◇ detection 「探知」

◇ impact 「衝突」

◇ allow ～ 「～の余裕を見ておく」

◇ countermeasure 「封止策」

◇ spacecraft 「宇宙船」 ※ 単複同形。

◇ nudge ～ 「～を少しずつ押す」

◇ blast 「爆破する」

◇ drag A out of B 「A を B から引きずり出す」

◇ meteoroid 「流星体」

◇ in place ① 「適当な」 ② 「～に適した」 ③ 「機能している」

◇ estimate 「見積もる」

◇ operation ① 「運転」 ② 「計画：事業」 ③ 「手術」

◇ deflect ～ 「～の向きをそらす」

◇ evaluate ～ 「～を評価する」



◇ threat 「脅威」

cf. pose a *threat* to ~ (～に対する脅威になる)

選択肢 a

◇ proceed with ~ 「～を続ける」

◇ extraterrestrial 「地球外の」

◇ life form 「生命体」

◇ inevitable 「避けられない」

◇ carry ~ forward 「～を前進させる」

◇ approach to ~ 「～の方法」

◇ precondition 「前提条件」

◇ ambitious 「野心的な」

◇ Mars 「火星」

◇ turn up ~ 「～を発見する」

◇ survey 「調査」

◇ outer planet 「外惑星」 太陽系の惑星のうち、小惑星帯より外側を運行する木星、土星、天王星、海王星。

◇ moon 「月；衛星」

◇ life's raw materials 「生命のもととなる材料〔原材料〕」

◇ retrieve ~ 「～を回収する」

◇ Europa 「エウロパ」 木星の第2衛星。

◇ Titan 「タイタン」 土星の第6衛星。

本文

ℓ. 28 ◇ fictional 「小説の」 < fiction

ℓ. 29 ◇ zip 「勢いよく進む」

○後続する about と beyond の両方につながる。この about は「ある場所のあちこちを」、beyond は「それを越えて」という意味。

ℓ. 30 ◇ touch ~ 「～に手をつける」

ℓ. 31 ◇ multi-layered 「多層の」

◇ boundary 「境界」

ℓ. 32 ◇ accomplishment 「業績」

◇ underline ~ 「～をはっきりと示す」

◇ uncertainty 「不確定性」 ⇔ certainty

ℓ. 34 ◇ migration 「移住」 < migrate

◇ feasible 「実現可能な」 (= practicable)

ℓ. 36 ◇ interstellar 「恒星間の」

ℓ. 37 ◇ pursue ~ 「～を追求する」 cf. *pursuit*

◇ presumably 「たぶん；おそらく」

◇ mutual ①「相互の」 ②「共通の」

ℓ. 38 ◇ naïve 「世間知らずの；単純な」

○日本語の「ナイーブ」と違って、否定的な意味合いが強い。

ℓ. 39 ◇ earnestly 「熱心に」 < earnest

◇ join together 「協力する」

◇ in pursuit of ~ 「~を求めて」

○ in quest of ~ ; in search of ~ と同様, of がくる点に注意。

ℓ. 57 ◇ venture 「冒険的事業」

ℓ. 40 ◇ at risk 「危険にさらされて」

ℓ. 41 ◇ hydrogen 「水素」

ℓ. 42 ◇ contemptuously 「軽蔑して」 < contemptuous 「軽蔑的な」

ℓ. 43 ◇ reflect on ~ 「~を回顧する；反省する」

ℓ. 46 ◇ rivalry 「競争関係」

ℓ. 47 ◇ commit oneself to ~ 「~に献身する」

### 【3】

#### 解答

- (1) 直前にある語：sent 入れるべき語：to
- (2) 直前にある語：might 入れるべき語：seem [be]
- (3) 直前にある語：as 入れるべき語：many
- (4) 直前にある語：would 入れるべき語：the
- (5) 直前にある語：attached 入れるべき語：to

#### 解説

- (1) 受動態の be sent の直後に the supermarket が続いているので、第4文型の受動態かと思うかもしれないが、send を第4文型で使うと「O<sub>1</sub> (=人) に O<sub>2</sub> (=物) を発送する」の意になる。ここでは「あなたがスーパーマーケットに行かされる」という文脈でないとおかしい。第4文型の send の受動態ではなく、send O to ~ で「O を~に行かせる」の意を表すので、sent の後に to が必要。
- (2) easy は形容詞なので、助動詞の直後に用いることはできない。間に be を入れるか「簡単そうに見える」という文脈になるよう seem を入れなくてはならない。
- (3) as different prices の部分の as が文法的に説明がつかない。ここでは直前にある a dozen different kinds of peaches の a dozen の繰り返しを避けるために as の次に many を補えば、as many ~ (同数の~) というイディオムが使えることに気づいてほしい。ちなみにこの as はもともと as ~ as A (does) の前の方の as で、後半の as A (does) が省略された結果、as many ~ の部分だけが残ってできたイディオムである。
- (4) most expensive は代名詞 (one) を修飾しており、このように名詞 (相当語句) を修飾する場合の形容詞の最上級には the が必要である。one はここでは前出の可算名詞 brand の代わりに用いられている。
- (5) attach O to ~ で「O を~に貼り付ける」の意を表す。ここでは前の the label を後置修飾する過去分詞であるから、attached の後ろには to が必要。

**全訳**

薄切りの桃の缶詰をスーパーに買いに行かされたと想像してみよう。最初は簡単そうに思えるかもしれない。しかし果物の缶詰の並んでいる通路を歩いていると、少なくとも十数種のいろいろな桃に、同じ数だけさまざまな値段が付いていることがわかってくる。一番安いブランドに手を伸ばすべきなのだろうか。それとも一番高いブランドを選ぶのが最もよいのだろうか。どのブランドが栄養たっぷりでかつお買い得なのか、どうやって決めればよいのだろうか。1つには、それぞれの缶詰に付いているラベル、つまり製品の説明書きを丁寧に読むという方法がある。

**【4】****解答**

- (1) **d** (2) **d** (3) insurance (4) **b** (5) **a** (6) **c**  
 (7) **A** money **I** pay **U** building [apartment] **II** other [opposite]  
 (8) 収入が乏しいのになぜ高価な宝石類や毛皮を持っているのかという疑問。  
 (9) have (10) back

**解説**

- (1) 2人の刑事が被害者に、強盗に入られた様子を尋ねているところだと予想がつく。Heはburglarのことだと想定し、前後の会話の内容から、burglarは宝石類や毛皮という金目の物を選んで持って行っていることがわかる。したがって、**d**のselective「選り好みする；目の肥えた」という形容詞が入ると考えられる。**a**「気まぐれな」、**b**「ためらいがちの」、**c**「疑わしい」はいずれも合わない。
- (2) クリングが、盗まれた品物のリストを要求しているところ。空所に入るMiss Blair(=Augusta)の言葉に続くクリングの言葉so we can get working on it(=the list)(それをもとに仕事〔調査〕を始められるように)から、Miss Blairはリストを渡す理由を尋ねていると判断できる。よって**d**「何のために？」が正解。「なぜ」と聞かれた時の答えは、いつもBecause…とは限らない。「…するためです」というのもよくある形である。選択肢に挙げた他のものはいずれもよく会話に使われるものだが、Certainly.は「承知しました。」といった返事、Don't mention it.は「どういたしまして。」ということで、Thank you.などに対する答え。
- (3) 空所の後に続くやりとり、特に直後のNone of it was insured. (何も保険はかけていなかった。)から当然こは「保険会社に連絡したいでしょう。」と言っているところ。よって、動詞insureの名詞形insuranceを入れればよい。an insurance companyで「保険会社」である。
- (4) 続くせりふI'll bet I've seen your picture in the magazinesからわかるように、ここは「見たことがある気がした」と言っているところ。be familiar (to ~)で「(物・事・人物が)(~にとって)なじみのある」の意である。  
 Ex. The voice on the phone sounded familiar to me.  
 (電話の声は、聞き覚えがある気がした。)  
**a**「上品な」、**c**「独特の」、**d**「注目すべき」ではいずれも合わない。

- (5) 「2週間」と言ったのを「16日」とより正確に言い直している。よって「実際には」の意の **a** actually が入る。
- (6) (It's a) Nice thing to come home to. は直訳的に考えれば「帰宅する先としては結構なことだ。」ということ。nice はここでは皮肉の意味で使われており、帰宅するとひどいことが待っていた、というわけである。正解は **c**。
- (7) 公園の向こう側の建物ならもう少し安全なのだろうが、その家賃を出すだけの余裕がなかった、ということ。刑事と思われる人物は「町のこちら側 (this side of the city) は安全とは言えない」と言っているので、オーガスタが言っている across the park (公園の向こう側) というのはつまり町の反対側 (the other side of the city) のことだと判断できる。よって … have enough money to pay for any building on the other side of the city とすればよいとわかる。
- (8) 下線部を含む部分は「彼女はクリングの顔に疑問の色を見てとった」の意。ここでは金銭的な余裕がないことを説明した後で、彼女が毛皮と宝石類が自分の収入で買ったものでないことを説明していることを考えれば、刑事と思われる人物の顔に何を見てとったかはわかるはず。
- (9) 口語的な表現の好例。ℓ. 24 に “Can you give me the name of the firm?” というのがあるが、これも “Can I have the name of the firm?” と言うことができる。
- (10) 文脈から「盗まれた品をできる限り取り戻すようにしたい」という意味だと推測できるかどうかは鍵。get back ~ で「～を取り戻す」の意味になる。ここは目的語が代名詞なので、get it back の語順になる。これは recover ~ と同意で、口語表現。

**全訳**

「彼は探していた物を見つけたのだろうか。」と、クリングが尋ねた。

「ええ。」と、彼女は答えた。「私の大事な宝石類は赤い絹のスカーフにくるんで一番上の引き出しの奥にしまっておいたのです。それがなくなっています。」

「他には？」

「毛皮が2点。ヒョウの毛皮とカワウソの毛皮だわ。」

「金目の物だけを取っているな。」と、インガソルが言った。

「うーん。」と、クリングがうなづいた。「ラジオ、蓄音機、そういったものは？」

「いいえ。ハイファイ装置は居間にそのままです。彼は手をつけていないわ。」

「宝石類とコートのリストが要りますね、ブレアさん。」

「何のためですか？」

「つまり、我々がそれをもとに調査を始められるようにということですが。それに、あなたも保険会社にこのことをご報告されたいでしょうしな。」

「何1つ保険をかけていなかったんですの。」

「なんとまた。」と、クリングが言った。

「こんなことが起こるなんて、とにかく考えてもみなかったんです。」と、オーガスタは言った。

「ここには一体どれくらいお住まいですか。」と、クリングが疑わしげに尋ねた。

「この町にということですか、それともこのアパートにですか。」

「両方です。」

「この町には1年半住んでいます。このアパートには8カ月ですわ。」

「もともとはどちらの出身なのですか。」

「シアトルです。」

「現在はどこかにお勤めでしょうか。」と、クリングは尋ね、メモ帳を取り出した。

「ええ。」

「会社の名前を教えてくださいませんか。」

「私はモデルをしています。」と、オーガスタは言った。「カトラリー・エイジェンシーが事務所になっています。」

「オーストリアにはモデルの仕事でいらしたのですか。」

「いえ、休暇で行きました。スキーをしに行っただけです。」

「あなたのことは見覚えがあるような気がしていたんですよ。」と、インガソルが言った。

「きっと雑誌であなたの写真を見たんですね。」

「ふん。」と、オーガスタは無関心に言った。

「どれくらい行ってらしたんですか。」と、クリングが尋ねた。

「2週間です。そうね、実際は16日ですけど。」

「帰宅してみるとこの有り様だったわけですね。」と、インガソルは再び言い、再び頭を振った。

「このアパートにはドアマンがいるので越してきたんです。」と、オーガスタは言った。「ドアマンがいるアパートなら安全だと思って。」

「町のこちら側の建物で安全なところなど1つありませんよ。」と、インガソルが言った。

「とにかく、多くはないですね。」と、クリングが言った。

「公園の向こう側となると、私には高すぎて。」と、オーガスタは言った。「モデルを始めてそう長くはないし、本当にそれほど多くは仕事も入ってこないんです。」彼女はクリングが疑問を抱いたのを表情に認めて、「毛皮は母からの贈り物だし、宝石類はおばが私に残してくれたものだよ。オーストリアに旅行するために、ほんと、6カ月も節約したんだから。」と言い、突然わっと泣き出した。「本当に、しゃくだわ。何でこんなことをしなきゃいけないのよ。」

インガソルとクリングは困ったような様子で傍らに立っていた。オーガスタはくるっと向きを変えると、インガソルの脇を通ってソファに行き、ハンドバッグからハンカチを取り出した。大きな音を立てて鼻をかみ、涙をふいて、「ごめんなさい。」と言った。

「全部のリストがいただけるなら…」と、クリングが言った。

「もちろん、お渡ししますわ。」

「取り戻せるようにできる限りのことはしますよ。」

「ええ。」と、オーガスタは言い、また鼻をかんだ。

**注**

ℓ.5 ◇ leopard 「ヒョウの毛皮」

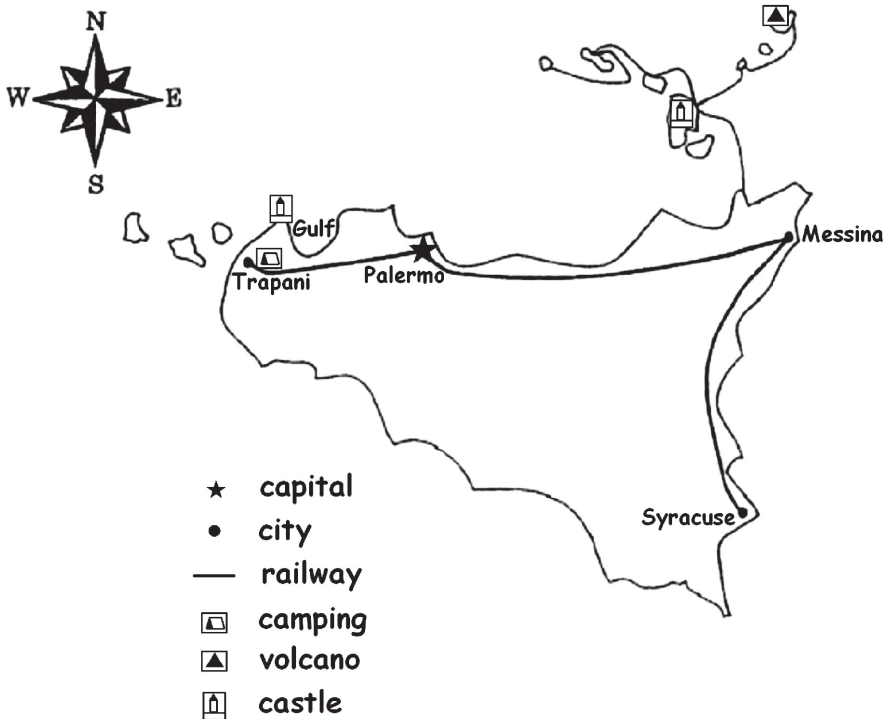
◇ otter 「カワウソの毛皮」

ℓ.7 ◇ phonograph 「蓄音機」

- ℓ. 8 ◇ hi-fi 「ハイファイ (の)」 high fidelity (高忠実度) の略。オーディオ機器で、再生される音が原音に忠実であること。
- ℓ. 16 ◇ incredulously 「疑うように」
- ℓ. 41 ◇ goddamn 「一体；まったく」 いらだちや怒りを表す表現。

【5】

**解答** .....



**Script** .....

🎧 CD 8 ~ 10

The island has a roughly triangular shape and boasts a year-round Mediterranean climate. On the western end of the island, just opposite the group of three islands you see on the map, is the city of Trapani. Although it is not the most famous city on the island, it is one of the most livable. The streets are often closed to automobile traffic and the people  
 5 are very friendly. Mark the town by drawing a small circle and writing the word Trapani (T-R-A-P-A-N-I). Just east of the town are good campsites. Mark this spot with the camping symbol.

To the north and a little to the east of this city, the land extends out into the sea. At



the northerly end of this peninsula is a historic castle. Mark the location of the castle by  
10 drawing the appropriate symbol.

East of the peninsula is the Sea Castle Gulf, where the coast curves inward to provide a  
number of pleasant beaches. Write the word "Gulf" in Sea Castle Gulf.

On the eastern side of the gulf is a much wider peninsula. On the eastern side of this  
peninsula there is a large harbor and the capital city of the island, Palermo. Mark the  
15 capital by drawing a small star and writing the word "Palermo" (P-A-L-E-R-M-O).

Another large and historically important city can be found on the extreme northeastern  
corner of the island. This is Messina, a city that was once one of the proudest and most  
prosperous in Europe but has within the last 300 years been greatly damaged by disease,  
earthquakes, and especially war. Mark the city by drawing a small circle and writing the  
20 word "Messina" (M-E-S-S-I-N-A).

There is a fairly efficient rail line connecting these three cities. Draw a railway along  
the island's northern coast connecting the cities of Trapani, Palermo, and Messina.

We don't have time right now to describe all of the many attractions of the island, but  
it would be a mistake to neglect mentioning the city of Syracuse. If you look at the  
25 southeastern corner of the map, you will see another gulf on the eastern side of the island.  
On either side of it the land sticks out like a pair of horns. On the northernmost horn is the  
ancient city of Syracuse. From the 6th to 3rd centuries BC this city was perhaps the  
greatest in the western world. It was here that Archimedes used his famous mirrors to  
destroy the fleet of Roman warships.

30 Mark the town by drawing a small circle and writing the word "Syracuse" (S-Y-R-A-C-  
U-S-E). Also draw a rail line connecting the city to Messina in the north.

Although there are also many interesting places to see in the south, we won't talk  
about those now. But I would like to mention two more places that I really enjoyed.

In addition to the main island there are many smaller islands. A little to the west of

35 Messina, there is a narrow finger of land sticking out into the northern Mediterranean.  
From here you can catch a ferry to a group of islands known as the Aeolian Islands. The  
largest one, which is the first on the ferry route, is called Lipari. It is the main island of the  
group and has an interesting castle. Mark it with the castle symbol.

If you go two stops farther on the northeasterly route, you will reach Stromboli. This  
40 island is an active volcano. Mark it with the volcano symbol. [590 words]

**全訳**

その島はほぼ三角形に近い形で、1年を通じて地中海性気候である点が自慢です。島の西の端には、地図で見ると3つの島が集まっているちょうど向かいに、トラパーニという都市があります。島で最も有名な都市ではありませんが、最も住みやすい都市の1つです。道は自動車が通行止めになることがよくあり、人々はとても親切です。その街があるところに小さな○を付けて Trapani (綴りは T-R-A-P-A-N-I) と書いておいて下さい。街のちょうど東にはよいキャンプ地があります。この場所にキャンプの記号を付けて下さい。

この都市から北へ、そして少し東に行くと、陸地は海へ突き出るように広がっています。この半島の北の端には、歴史上有名な城があります。城の位置に適切な記号を書いて下さい。

その半島の東はシー・キャッスル湾で、そこで海岸線は内側に入り、心地よいビーチがたくさんあります。シー・キャッスル湾のあるところに “Gulf” と書いて下さい。

その湾の東側にはもっと大きな半島があります。この半島の東側には、大きな港とこの島の首都パレルモがあります。その首都に小さな星印を付け、“Palermo” (綴りは P-A-L-E-R-M-O) と書いて下さい。

もう1つの大きくて歴史的に重要な都市が、島の最北東の隅にあります。これがメッシーナで、かつてはヨーロッパで最も立派で繁栄した都市の1つでしたが、ここ300年の間に疫病や地震、そして特に戦争によって、大きな痛手を受けました。その都市があるところに小さな丸を付けて “Messina” (綴りは M-E-S-S-I-N-A) と書いて下さい。

これら3つの都市を結ぶ極めて効率のよい鉄道があります。島の北側の海岸線に沿ってトラパーニ、パレルモ、メッシーナの都市を結ぶ鉄道を書き入れて下さい。

島の見所をすべて説明する時間は今はないのですが、シラキュースという都市について触れないでおくのは誤りになるでしょう。地図の南東の隅を見ると、島の東側にもう1つの湾があるのがわかるでしょう。湾のどちら側にも2本の角のように陸地が突き出ています。そのうち最北端の角が古代都市シラキュースです。紀元前6～3世紀には、この都市はおそらく西洋の世界で最大の都市でした。アルキメデスが彼の有名な鏡を使ってローマ軍の艦隊を打ち破ったのは、まさにここなのです。

その街があるところに小さな丸を付け、“Syracuse” (綴りは S-Y-R-A-C-U-S-E) と書いて下さい。また、その都市から北にあるメッシーナとを結ぶ鉄道を書き入れて下さい。

南部にも興味深い見所がたくさんありますが、今はそれについては触れません。しかし、あと2つ私が大変楽しんだ場所について言っておきたいと思います。

本島の他に、小さい島々がたくさんあります。メッシーナから少し西に行くと、地中海北部に指のように突き出た細長い陸地があります。ここからフェリーに乗って、エオリア諸島として知られている、島が集まっているところへ行くことができます。最大の島は、フェリーが最初に着く島ですが、リバリ島と呼ばれています。ここは諸島の中心の島で、面白い城があります。その城のあるところに城の記号を書いて下さい。

北東行きのフェリーであと2つ行くと、ストロンボリ島に着きます。この島は活火山です。火山のあるところに火山の記号を書いて下さい。

**注**

- ℓ. 1 ◇ roughly 「およそ」
  - ◇ triangular 「三角形の」
  - ◇ boast ～ 「～を自慢する」
  - ◇ year-round 「1年を通して」
- ℓ. 2 ◇ just opposite ～ 「～のちょうど反対側に」
- ℓ. 4 ◇ livable 「住みやすい」
  - ◇ closed to ～ 「～は立ち入り禁止の」
- ℓ. 9 ◇ peninsula 「半島」
- ℓ. 10 ◇ appropriate 「適切な」
- ℓ. 11 ◇ where the coast curves inward to provide ～ 「そこで海岸線は内側に入り～となっている」
- ℓ. 16 ◇ the extreme northeastern corner 「最北東の一番端」
- ℓ. 18 ◇ prosperous 「繁栄した」
- ℓ. 21 ◇ efficient 「効率のよい」
- ℓ. 23 ◇ we don't have time right now to … 「今は…する時間はない」
- ℓ. 24 ◇ it *would* be a mistake to … 「…することは誤りであろう」
  - ◇ neglect …*ing* 「…しないでおく」
- ℓ. 26 ◇ stick out 「突き出る」
- ℓ. 29 ◇ fleet 「艦隊」
- ℓ. 34 ◇ in addition to ～ 「～に加えて」
- ℓ. 39 ◇ go two stops farther 「さらに2つ先まで行く」
- ℓ. 40 ◇ volcano 「火山」